

平成27年7月30日

## **日清製粉グループ 第1四半期連結決算、通期連結業績予想**

**当第1四半期は売上高1,396億10百万円、経常利益69億26百万円。**

### **[平成28年3月期第1四半期連結決算]**

日清製粉グループ本社（社長：大枝 宏之）は、事業環境の変化に適合し、業績を回復・向上させるべく、将来の持続的な成長に向けた、新経営計画「NNI-120 II」（バージョンII）を策定し、取組みを開始しました。新経営計画におきましては、コア事業の収益基盤の再構築に注力すると同時に、買収事業を含めた自立的成長と新規戦略投資（M&A、設備投資）等の実行により、着実な利益成長を目指してまいります。また、資本効率の向上と財務の安定性のバランスを取りながら、将来の成長に向け戦略投資を推進するとともに、従来以上に積極的な株主還元に取り組んでまいります。

当第1四半期につきましては、政府の景気対策や日本銀行の金融緩和政策の効果等による円安・株高の継続、企業業績や雇用・所得環境の改善等を背景に、消費マインドは持ち直してきており、緩やかな景気回復の動きがみられました。一方、当社関連業界につきましては、円安等による原材料価格、物流コストの上昇、電気料金の高止まり等、厳しい状況が継続しております。

当社グループ各事業につきましては、市場の活性化に向け積極的な新製品の上市・拡販に取り組むとともに、国内外で事業基盤強化に努めました。国内の製粉事業では、知多工場新ラインが稼働するなど、臨海大型工場への生産集約を進め、コスト競争力強化を推進しました。食品事業では、神戸の冷凍食品新工場が稼働し、冷凍パスタの出荷を開始しました。海外では、米国で製粉4工場買収後のPMI（Post Merger Integration：M&A後の統合プロセス）を推進するとともに、トルコのパスタ工場が稼働するなど、各施策が順調に進捗しました。

これらの結果、売上高は海外事業の拡大及び国内外での拡販により、1,396億10百万円（前年同期比115.4%）となりました。利益面では、原材料コストの上昇、戦略投資の減価償却費の増加等はありませんでしたが、海外事業の貢献、出荷増及び全社的なコスト削減等に取り組んだ結果、営業利益は50億3百万円（前年同期比125.7%）、経常利益は69億26百万円（前年同期比121.6%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は46億30百万円（前年同期比143.3%）となりました。

### **[平成28年3月期通期連結業績予想]**

我が国の経済は、企業業績や雇用情勢の改善等、緩やかな景気回復の動きがみられます。一方、当社グループを取り巻く環境は、不安定な海外情勢とこれに伴う為替変動及び国内における消費者の節約志向の継続、原材料価格上昇等、引き続き不透明な状況が予想されます。このような環境下におきましても、当社グループは国民の主要食糧である小麦粉等の安定供給を確保し、安全・安心な製品を供給するという使命を果たしてまいります。また、新経営計画「NNI-120 II」で策定した戦略を着実に遂行し、各事業においてお客様視点に立った新製品の開発や広告宣伝活動等の販売促進施策及び生産性向上等のコスト削減に取り組むとともに、海外事業の拡大を推進してまいります。

以上により、平成28年3月期の業績見通しにつきましては、売上高は5,700億円（前期比108.3%）、営業利益は205億円（前期比100.1%）、経常利益は243億円（前期比95.1%）、親会社株主に帰属する当期純利益は161億円（前期比100.4%）と、当初予想を据え置いております。

また、当期の配当につきましては、連結ベースでの配当性向を40%以上とする新経営計画の基本方針のもと、当初予想通り、前期より2円増額の1株当たり年間24円を予定しております。

以上